



HPはこちら

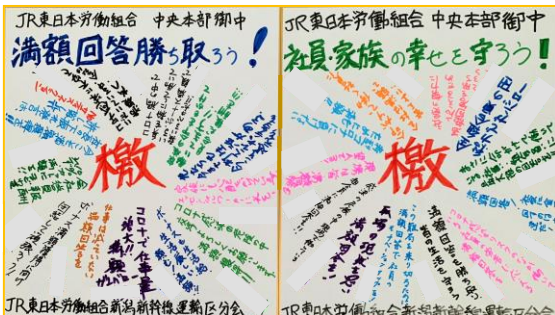
東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 教育・広報部
2020年6月6日 No.218

経営側は「支払い体力はあるが
『出す、出さない』は検討しているところである」と主張

満額支給を現場から経営側に迫ろう！

2020年度夏季手当の取り組み ②



新潟新幹線運輸区分会

7期連続で基本給改定はされているが、生活水準の向上を実感できるものではない。こういう時こそ「内部留保金」で、社員の努力に応えるべきだ！日々、新型コロナウイルス感染の不安を感じながら業務に従事している。働く者のモチベーション向上のためにも、満額回答を望む！

コロナ禍であっても、列車は動いている。また、貨物列車も同様である。列車が動く以上は「安全・安定輸送」をするために、法令を守るために設備職場で働く組合員は業務を行ってきた。その努力を経営側は分かるのか！

JR東日本と競合する私鉄が多数ある。バスや他の公共交通機関があるにも関わらず、当社を選択して乗っていただいている。これは決して経済の後押しだけではない。当社に対する「信頼と安心」をこの間つくりあげてきたのは、紛れもなくJR労働者である。それはコロナ禍であろうがなかろうが、日々努力していることは何も変わらない！

会社幹部はよく「ピンチをチャンスに」とよく言うが、言葉だけではなく夏季手当要求の満額回答であらわしてくれれば、社員はより一層努力する！

この間、過去最高の収益を9年間も更新し続けたのに、会社は出し渋ってきた。経営側が「安定支給という考え方がある」と言っていたことを、私たち社員は忘れていない！

この間の夏季手当は業績連動ではなく、ずっと横ばいだった。今回だけ業績連動で支給を減らすのは許さない！経営側はこれまで通り、最低でも同じ額で安定支給する方針を貫け！社員の生活を守れ！と強く言いたい！

会社側が述べているのは「昨年度より収益が悪い」「物件費が増加している」と、悪いことばかり述べている。それを社員に転嫁するな！